

地域社会と連携しながら継続的に環境美化に取り組む全国の小・中学校を表彰

## 「第19回 環境美化教育優良校等表彰事業」 最優秀校4校ほか決定

### 【最優秀校】

文部科学大臣賞	石川県	かほく市立七塚 <small>ななつか</small> 小学校
農林水産大臣賞	新潟県	上越市立春日 <small>かすが</small> 中学校
環境大臣賞	鹿児島県	南九州市立松ヶ浦 <small>まつがうら</small> 小学校
協会会長賞	山口県	光市立浅江 <small>あさえ</small> 中学校

清涼飲料・ビールなど飲料業界6団体で構成する、公益社団法人食品容器環境美化協会（略称：食環協、会長：柴田 暢雄）では、本年度の「環境美化教育優良校等表彰事業」において、都道府県より推薦を受けた全国の小・中学校の中から最優秀校4校、優秀校6校、優良校27校を選定し、表彰いたします。

この表彰事業は、独創的な環境美化教育に継続的かつ熱心に取り組み、地域社会と連携しながら「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践することにより、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校を選出し表彰するものです。

最優秀校4校は、都道府県の推薦によって選出された中から審査委員会による厳正な審査を経て、「文部科学大臣賞」「農林水産大臣賞」「環境大臣賞」「協会会長賞」にそれぞれ決定いたしました。なお、小学校と中学校の部門を区分せずに表彰しております。

受賞校の中でもとりわけ特色のある活動を行っているのが、全校児童18名が地域住民の協力を得ながら海岸の美化活動に取り組む、鹿児島県南九州市立松ヶ浦小学校です。ウミガメが安心して産卵できるように、地域団体と連携して海岸の漂着ごみの回収と分類調査に積極的に携わっています。長年にわたるウミガメの卵の保護活動は、同校における教育の大切な柱として複数の教科にわたって位置づけられ、こうした教育環境の下、命を育むふるさとの海を先頭に立って守る児童の姿勢が高く評価されました。

他の最優秀校3校においても、自分たちができることを考え、地域に溶け込んでさまざまな環境美化活動に率先して取り組む児童・生徒の自主性が際立っていました。

また、全体として、海岸の漂着ごみに焦点をあてて、地域の特性を生かした優れた活動を行う受賞校が多いのも本年度の特徴です。

表彰式は2019年1月25日（金）、浅草の下町界隈や東京スカイツリーを一望する「浅草ビューホテル」（東京都台東区）にて、最優秀校4校を招いて開催いたします。

式典では、各受賞校の美化活動の様子をインタビュー映像やスライドで紹介しながら、生き生きと取り組む児童・生徒の前向きな姿や教師の思い、サポートする地域住民の熱意をお伝えしてまいります。



公益社団法人食品容器環境美化協会は、1973年に設立されて以来45年の間、飲料容器の散乱防止とリサイクル推進の啓発を中心とした環境美化の推進に努めてまいりました。日本の環境が美しくなることを目的として、「環境教育の支援」、「ポイ捨て防止の啓発」、ならびに「アダプト・プログラムの推進」などの事業を展開しています。

「環境美化教育優良校等への表彰」は、「環境美化教育の助長」及び「地域の環境美化の啓発」を目的に2000年度から開始し、本年度が19回目となります。

この間、地域の環境美化やリサイクル推進に積極的に取り組む小・中学校を表彰し、当該学校の児童・生徒の活動を励ますとともに、その活動を広く紹介してきました。同時に、環境美化教育の全国における活性化にも寄与してまいりました。

環境教育への取り組みが年々重要になる中で、本年度も全国の都道府県から、独創的な環境美化教育に熱心に取り組む、校内だけでなく地域社会と連携して環境美化に大きく貢献する活動の実践に努めている小・中学校が多数推薦されました。これら各校の活動内容を、審査委員会において厳正に審査した結果、このたび4校が最優秀校、6校が優秀校、27校が優良校として選定され、表彰の運びとなったものです。

#### ■本年度の各都道府県からの推薦状況

第19回は、環境美化につながる散乱防止活動またはリサイクル推進活動を継続している小学校・中学校から都道府県が1校を推薦する方式

	合計
推薦があった都道府県数	37
推薦校数	37

#### ■本年度審査結果

審査委員会による審査の結果、受賞校を以下の通り決定

	受賞校数
最優秀校	4
優秀校	6
優良校	27

最優秀校に選ばれた4校の活動概要およびその他各賞の受賞校は以下の通りです。

■最優秀校の活動概要（詳細は P7 以降参照）

散乱防止活動またはリサイクル推進活動	
文部科学大臣賞	<p>石川県 <sup>ななつか</sup>かほく市立七塚小学校</p> <p>校区にある海浜の漂着ごみが深刻化していることに問題意識を持ち、1990年から「海浜クリーン作戦」を開始した。地域の浜を守るために児童は年3回、海浜実態調査を実施し、現状を把握しながら課題を抽出。環境保全には、地域住民の協力が必要だと考え、清掃活動の協力を呼びかけるポスターを作成し、区長をはじめ、商店や施設などを回ってポスター掲示の依頼を行う。さらに金沢海上保安部にも協力を呼びかけるなど、学校を超えて地域を巻き込んだ活動に育っている。清掃活動当日は、回収ごみを種類ごとに色分けしたゼッケンをつけて、正しく分別ができるようにするなど随所に工夫を凝らす。こうした活動を通じて、ごみに対する意識が向上した児童は、海洋ごみをテーマにした新聞制作にも励む。教科横断的に学習したことを地域へ発信する際には、学校コーディネーター制度を活用。学校と地域との交流がスムーズに図られ、児童の士気アップにもつながっている。</p>
農林水産大臣賞	<p>新潟県 <sup>かすが</sup>上越市立春日中学校</p> <p>地域の名所、春日山城跡周辺の清掃に2008年から取り組む。自主的なボランティア活動にもかかわらず、参加者は年々増え続け、今年度は住民200人に対して、270人もの生徒が集まった。春日山で毎年行われる「謙信公祭」では、実行委員会を立ち上げ、生徒は企画提案から広報、準備、出演などさまざまな形で参加。春日山城跡保存整備促進協議会と連携しながら、自分たちが住む地域を盛り上げようという意欲が向上している。同じく地域貢献活動の一つである、春日山城跡の修復作業「土の一袋運動」を2010年から開始。天守台跡などの土の流出対策として、土を盛り芝生を張る地道な作業だが、周辺の松林清掃とともに積極的に取り組む。春日山城跡の美化活動をきっかけに、生徒一人ひとりが自分でできることを考え、謙信公祭をしっかりと支えながら地域に広く発信する様子は、「ふるさとへの愛着心が感じられる」と住民からも高評価で、町の活性化に寄与している。</p>
環境大臣賞	<p>鹿児島県 <sup>まつがうら</sup>南九州市立松ヶ浦小学校</p> <p>学校周辺の松ヶ浦地区海岸清掃活動に住民とともに取り組み、今年で26回を数える。同時に、「知覧町ウミガメ保護研究会」と連携しながら、ウミガメの卵の保護・移設、孵化・放流の活動にも励む。そうした継続的な取り組みが契機となり、指宿海上保安署や地域団体とともに海岸の漂着ごみの回収・分類調査を2009年から開始。今年度は68.6kgの漂着ごみを回収、問題意識を持って種類や材質別に分類している。さらに、昨年は自分たちの手で孵化させたウミガメを放流する会を実施し、ウミガメの生態や海の環境保護などのテーマを設けて見学者に発表した。こうした美化活動と保護活動が一体となった地域ぐるみの取り組みは、複数の教科・領域等を関連付けたカリキュラムで実践されており、地域内外から高く評価。美しい海岸を守ろうという意欲が高まった児童は、松ヶ浦地区公民館が主催する遊歩道清掃活動にも自主的に参加するなど、地域活性化に一役買っている。</p>
協会会長賞	<p>山口県 <sup>あさえ</sup>光市立浅江中学校</p> <p>2011年から通学路に散乱している空き缶などを回収する清掃「AYC活動」を実践している。当初は生徒のみで行っていたが、住民や近隣の小学校と連携しながら取り組むようになり、校区全体に環境美化の輪が広がっている。こうした協働事業を進める上で、欠かせないのがコミュニティ・スクールの組織だ。「あさなえJネット」と名付け、地域とともにある学校づくりを目指して、学校・地域・家庭の連携強化を図っているのが最大の特徴である。運営の一端を担う生徒は、活動を振り返りながらアイデアや意見を出し合い、次の取り組みに生かしている。AYC活動と体力作りが目的の「早朝元気クラブ」がコラボした環境美化活動もその一つで、一丸となって地域を美しくしていこうという意識が向上している。徐々に参加者が増えてきた住民から感謝の声が上がる中で、自己有用感が高まった生徒は、市主催の海岸清掃や、松林の保全ボランティア活動にも意欲的に取り組む。</p>

■その他受賞校:

<優秀校> 協会会長賞 6校

埼玉県	加須市立昭和中学校	富山県	入善町立飯野小学校
兵庫県	南あわじ市立西淡 <sup>せいだん</sup> 中学校	徳島県	石井町浦庄 <sup>うらしょう</sup> 小学校
大分県	竹田市立菅生 <sup>すごう</sup> 小学校	宮崎県	都城市立中郷 <sup>なかごう</sup> 中学校

<優良校> 協会会長賞 27校

北海道	新十津川町立新十津川中学校	青森県	弘前市立三省 <sup>さんせい</sup> 小学校
宮城県	石巻市立中里小学校	秋田県	仙北市立生保内 <sup>おほない</sup> 中学校
山形県	新庄市立新庄中学校	福島県	白河市立白河中央中学校
茨城県	古河市立古河第一中学校	群馬県	東吾妻町立東吾妻中学校
千葉県	八千代市立大和田中学校	東京都	西東京市立田無第一中学校
福井県	敦賀市立沓見 <sup>くつみ</sup> 小学校	長野県	長野市立櫻ヶ岡 <sup>かみうちだ</sup> 中学校
岐阜県	輪之内町立輪之内 <sup>わのうち</sup> 中学校	静岡県	掛川市立上内田 <sup>かみうちだ</sup> 小学校
愛知県	豊山町立新栄小学校	京都府	宮津市立栗田 <sup>くんだ</sup> 中学校
大阪府	大阪市立新豊崎中学校	奈良県	天理市立丹波 <sup>たんばいち</sup> 市小学校
和歌山県	那智勝浦町立下里小学校	鳥取県	琴浦町立赤碕 <sup>あかさき</sup> 小学校
岡山県	和気町立佐伯中学校	愛媛県	松山市立素鷲 <sup>そが</sup> 小学校
高知県	南国市立十市 <sup>とおち</sup> 小学校	福岡県	糸島市立長糸小学校
佐賀県	伊万里市立牧島小学校	長崎県	長崎市立稻佐小学校
熊本県	合志市立合志 <sup>こうし</sup> 中学校		

■表彰授与

- 最優秀校4校の表彰式は、下記にて行います。

2019年1月25日(金) 15:30~17:10 (受付 14:30~)

浅草ビューホテル 4階「飛翔の間」

東京都台東区西浅草 3-17-1 電話 03-3847-1111

<http://www.viewhotels.co.jp/asakusa/> \*つくばエクスプレス「浅草駅」直結

懇談会 17:30~19:00 (予定) 25階「大輪の間」

- 優秀校ならびに優良校については、後日、各都道府県において表彰状等を伝達します。

## 環境美化教育優良校等表彰事業の概要

- 主 催：公益社団法人 食品容器環境美化協会
- 後 援：文部科学省、農林水産省、環境省
- 表彰の対象：環境美化教育に独創的・継続的かつ熱心に取り組み、「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践し、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校、およびこれに準ずる小・中学生の団体（以下「小・中学校」）

- 表 彰：
- |      |         |    |
|------|---------|----|
| 最優秀校 | 文部科学大臣賞 | 1校 |
| 最優秀校 | 農林水産大臣賞 | 1校 |
| 最優秀校 | 環境大臣賞   | 1校 |
| 最優秀校 | 協会会長賞   | 1校 |
- ・賞状と副賞を贈呈
- ・上記の他、「優秀校」、「優良校」に対し、協会会長賞として賞状と副賞を贈呈

■推薦・審査：

【最優秀校・優秀校・優良校】

都道府県環境整備主管部局、または教育主管部局が推薦する小・中学校を審査委員会で審査

■審査委員：

- |         |        |                                                               |
|---------|--------|---------------------------------------------------------------|
| [審査委員長] | 小澤 紀美子 | 東京学芸大学名誉教授・東海大学大学院客員教授                                        |
| [審査委員]  | 柏木 順二  | 公益財団法人 日本環境協会 専務理事                                            |
|         | 國分 重隆  | 全国小中学校環境教育研究会 顧問<br>東京都教職員研修センター研修部教育開発課 教授                   |
|         | 小島 あずさ | 一般社団法人 JEAN 事務局長・副代表理事                                        |
|         | 堀田 肇   | 公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会<br>業務執行理事 企画広報部長                         |
|         | 岡崎 悟   | 公益社団法人 食品容器環境美化協会 企画委員<br>ダイドードリンコ株式会社 お客様相談室<br>アシスタントマネージャー |
|         | 小穴 秀隆  | 公益社団法人 食品容器環境美化協会 企画委員<br>キリン株式会社 CSV 戦略部 主査                  |

(敬称略)

## 公益社団法人食品容器環境美化協会の概要

1973年（昭和48年） 任意団体「食品容器環境美化協議会」として発足  
1982年（昭和57年） 社団法人「食品容器環境美化協会」（農林水産大臣設立認可）  
設立以来45年間、飲料容器の散乱防止など国土の環境美化の推進に努め、公共の福祉の増進に資するため、各種啓発活動を行っている公益法人です。  
2011年（平成23年） 公益社団法人「食品容器環境美化協会」（内閣府認可）  
公益法人制度の改革に伴い、内閣総理大臣から公益社団法人の認定を受け、「公益社団法人 食品容器環境美化協会」として再発足しました。

主な活動 : ○新しいまち美化手法「アダプト・プログラム」の普及と推進活動  
○小・中学校でのパソコン学習支援サイト「まち美化キッズ」の運営、  
教育者向け「環境美化 学習のガイド」の制作提供等の次世代への  
環境教育支援 <https://www.kankyobika.or.jp/kids/>  
○市民団体等への環境美化活動の支援  
○「ポイ捨て防止」啓発活動  
○散乱ごみ対策の調査・研究 等

構成団体 : 一般社団法人 全国清涼飲料連合会 <http://www.j-sda.or.jp/>  
清涼飲料メーカーなど企業会員46会員78社、組合会員20会員176社、  
賛助会員146社からなる社団法人  
一般社団法人 全国トマト工業会 <http://www.japan-tomato.or.jp/>  
トマト加工製品メーカーなど35社からなる社団法人  
一般社団法人 日本果汁協会 <http://www.kaju-kyo.ecnet.jp/>  
果実飲料メーカーなど122会員からなる社団法人  
日本コーヒー飲料協会  
コーヒー飲料メーカーなど19会員からなる任意団体  
コカ・コーラ協会  
日本コカ・コーラ社と全国のコカ・コーラボトリング社からなる任意団体  
ビール酒造組合 <http://www.brewers.or.jp/>  
サッポロ、サントリー、アサヒ、キリン、オリオンのビール5社による特別認可法人

■本件に関するお問い合わせ先■

公益社団法人食品容器環境美化協会（食環協）

〒108-0023 東京都港区芝浦 2-15-16 田町 K.S ビル 6階

TEL. 03-5439-5121 FAX. 03-5476-2883

ホームページ <https://www.kankyobika.or.jp/>